

三島市文化財 保存活用地域計画 概要版

三島市は古く奈良・平安時代には伊豆国の国府が置かれ、中世には三嶋大社の門前町として発展し、江戸時代には東海道五十三次の三島宿としてにぎわうなど、歴史豊かなまちです。また、市内随所で富士山からの湧水が見られる「水の都」として、せせらぎが市民の暮らしに溶け込んだ、魅力あふれるまちです。

このような豊かな歴史と自然環境のもと、市内各所には多様な文化財が存在し、地域の中で大切に受け継がれてきました。

令和6年（2024）

1 三島市の歴史文化の特徴と関連する文化財

①富士山からの溶岩流と豊富な湧水

本市の市街地は愛鷹山と箱根山にはさまれた谷状の地形上に発達した扇状地にあります。この扇状地には約1万年前の富士山噴火の際の溶岩流である三島溶岩流や2,900年前の富士山の山体崩壊による御殿場泥流などが堆積しています。富士山から溶岩のすき間を流れてきた地下水が市街地付近で湧き出すため、この地にくらす人々は自分たちのまちを「水の都」と呼び、誇りとしてきました。



楽寿園小浜池*1



源兵衛川



水辺興談（三四呂人形）*3
野口三四郎作

②箱根西麓の丘陵地と田方平野の暮らし

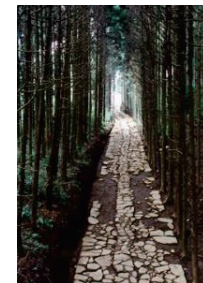
本市は東方3分の2を箱根西麓の丘陵地が占め、南西部には田方平野が広がる、東高西低の地形となっています。縄文時代までは丘陵地での狩猟採集が中心でしたが、弥生時代以降は平野部での稲作中心の暮らしに移行し、古代・中世にも開発が進みました。箱根西麓は近世には東海道の旅人相手の茶屋や輸送業で繁栄し、近代以降はブランド物の野菜栽培を盛んに行っています。このように、丘陵地と平野部で時代ごとに地形に適した様々な暮らしが展開してきました。



縄文土器 深鉢
縄文時代 陰洞B遺跡



弥生土器
弥生時代中期 長伏六反田遺跡



箱根旧街道石畳（腰巻地区）*1
江戸時代

*1 国指定文化財、*2 県指定文化財、*3 市指定文化財

③三嶋大社を中心に栄えた四辻文化

平安時代に三嶋大社が現在の位置に遷り、源頼朝以降の武家の崇敬を集めるようになると、三島は三嶋大社を中心とした門前町として発展します。また、三嶋大社を中心に東西に東海道、北に佐野街道(甲州道)、南に下田街道が伸びる交通の要衝、四辻のまちでもあります。そのため地域内外の人々の交流が進み、文化的な活動が盛んに行われました。

よつつじ



三嶋大社本殿・幣殿・拝殿*1・舞殿*3



三島 問屋場・町役場文書



三島囃子*2



言成地藏堂

④伊豆の玄関口に位置する政治・経済の中心

伊豆半島は太平洋に突き出た形となっているため、その付け根にある三島は伊豆国のなかでは奈良・京都や鎌倉・江戸といった各時代の政権所在地にもっとも近い、伊豆の玄関口に位置しています。そのため、伊豆国の政治・経済の中心地としての役割を果たしてきました。



向山古墳群*2



伊豆国分寺塔跡*1



三島駅開業の祝賀会
昭和9年(1934)

2 三島市にある文化財

様々な文化財を「有形文化財」、「無形文化財」、「民俗文化財」、「記念物」、「文化的景観」、「伝統的建造物群」、「その他」の7つに分けて把握しています。

国・県・市は、このうちの重要なもの等を指定・選定・登録し、指定等文化財としています。本計画では、未指定を含む幅広い文化財の保存・活用を図っていきます。

①有形文化財

建造物

寺社の境内に指定等文化財を含む多くの文化財が存在しています。

また、看板建築、「野戦重砲兵連隊門・歩哨舎ほしやうしや（未指定）」等三島の近代に関連する建造物が市街地を中心に残っています。

その他、市内には多数の石造物があり、地域ごとの特徴が見られます。



玉澤妙法華寺庫裡*3

美術工芸品

ア 絵画・彫刻・工芸品

市内の三嶋大社宝物館と佐野美術館は指定等文化財を含む彫刻や刀剣・陶磁器等の工芸品を多数所蔵しています。その他、妙法華寺の「絹本著色日蓮上人像けんぽんちやくしよくにちれんしょうにんぞう（重要文化財）」など、市内の寺社に伝わるものもあります。



梅時絵手箱*1 三嶋大社蔵



薙刀 銘備前国長船住人長光造*1
佐野美術館蔵

イ 書跡・典籍・古文書・歴史資料

中世のもの多くは三嶋大社宝物館に所蔵されています。近世のものは博物館の他、旧家や町内会が持っているものがあります。

近代のものとして地域の文化人による書画、典籍も多数残されています。

ウ 考古資料

箱根西麓の丘陵部の旧石器時代、縄文時代の遺跡では、縄文土器が出土しています。

平野部の遺跡では、弥生土器・土師器・須恵器、木製品や金属器が出土し、平野部からやや外れた向山古墳群むかいやま、夏梅木古墳群なつめぎでは、鉄製の武具等の副葬品が出土しています。

中世以降の考古資料として、山中城跡から出土した鉄砲玉や武具(未指定)があります。



吊手土器*3

②無形文化財

市内には指定等を受けている無形文化財はありませんが、昭和初期に平井源太郎によって広められた「農兵節(未指定)」は、現在でも三嶋大祭りや各地区の祭りで踊られています。

また、日本遺産の構成文化財となっている「鰻料理うなぎ(未指定)」は本市の名物となっています。



農兵節

③民俗文化財

有形の民俗文化財

職人の使っていた道具、農業・商業・くらしに関するものなどから構成されます。



三島傘

無形の民俗文化財

指定等文化財として「三嶋大社のお田打(県指定)」と「三島囃子(県指定)」があり、「三島囃子」から派生した各地区の「シャギリ」「子供シャギリ」等が伝承され、現在でも行われています。

その他に特徴的な地域信仰に根ざしたものとして「ヤッサモチ(未指定)」「ヨシダサン(未指定)」「オテンノウサン(未指定)」等があります。



三嶋大社のお田打*2

⑤文化的景観

市内には文化的景観の選定はありませんが、本市の地形や湧水を活かした景観が見られます。



箱根西麓地区の畑作景観

⑥その他

伝承・昔話

100以上の伝承・昔話を確認しており、源頼朝の三嶋大社への百日祈願に関連した伝承も多く残されています。



孝行犬の墓(圓明寺)

絵葉書・古写真

近代以降、市街地の町並みや三嶋大社、野戦重砲兵連隊、^{ぞう}豆相鉄道等の鉄道、^{りおうせし}李王世子別邸(旧小松宮別邸)、北伊豆震災と復興等を題材とした絵葉書や写真帳が発行されており、これらによってかつての三島市域の風景を知ることができます。

遺跡(史跡)

市内には旧石器時代から近世まで幅広い時代の遺跡が分布しています。



長伏遺跡(方形周溝墓)

動物、植物、地質鉱物(天然記念物)

植物では「三島神社(三嶋大社)のキンモクセイ(国指定)」、地質鉱物では「楽寿園(国指定天然記念物・名勝)」があります。

④記念物

名勝地(名勝)

^{こはまいけ}小浜池を中心とした「楽寿園(国指定天然記念物・名勝)」の他、「文教町のイチヨウ並木の黄葉(未指定)」といった場所が市民から名勝地として認識されています。



文教町のイチヨウ並木の黄葉

地域計画の概要

計画期間：

令和7～12年度(2025～30)の6年間

三島市では開発の進行、所有者の死亡、移転による文化財の散逸・消滅、災害による文化財の被災、少子高齢化による文化財継承の担い手不足が課題となっています。こうした課題解決のためには、文化財の保存だけでなくまちづくりや観光へ活用していく必要があります。

本計画では「薫り高い文化がいきづくまち・みしま」の実現を目指し、4つの方針のもと関係者と相互に連携を図り措置(事業)を推進し、市の総合計画・行政評価の仕組みにより進捗管理を行い、結果を三島市文化財保護審議委員会に定期的に報告します。

※市内で「伝統的建造物群」に相当するものは確認できていません。

3 文化財保存活用地域計画の取組

本市の文化財の保存・活用に関する将来像、方向性を踏まえ、措置(事業)を設定しました。

【将来像】 薫り高い文化のいきづくまち

文化財を知り、学ぶ

市内に存在する文化財を把握し、それぞれの文化財について調査研究を進めることで適切な保存環境や活用方法を明らかにします。

むかいやま 向山16号墳発掘調査事業

古墳の本質的価値を明らかにするため、発掘調査が十分行われていない向山16号墳の発掘調査を行い、報告書を作成する。



向山16号墳*2

文化財を守り、次世代へつなげる

文化財の保存にあたり、保存環境の整備、修理・修復、防災・防犯対策等の取組を行い、次世代につなげます。

史跡山中城跡災害復旧事業

令和元年台風19号と令和3年の長雨による被災箇所の復旧及び今後の災害対策としての排水路の設置を進める。



山中城跡*1の障子堀の崩落

伝統行事、民俗芸能等継承支援事業

シャギリ、オテンノウサン等市内で行われている伝統行事や民俗芸能等の無形の民俗文化財について、調査結果の概要をパンフレット等にまとめて発行する。また、シャギリ等の演奏の場の拡充や団体間の交流等により継承を支援する。



オテンノウサン

文化財の災害対策に関する啓発事業

文化財所有者や市民に対して、災害時の文化財救済やそのための平時の準備の重要性について、意識啓発を行う。



文化財防火月間の放水訓練

・みしま

文化財を 人づくり、 まちづくりに 活かす

文化財を学校教育や生涯学習で活用し、市民の郷土愛を育み、人材育成に貢献します。また、地域の歴史文化を表わす文化財を観光や地域コミュニティでの活動に活用し文化財自体の価値や魅力を高めます。

文化財講座の実施

地域の歴史文化や文化財に関する講座、講演会、現地説明会を開催する。その際、埋蔵文化財や古今伝授など、これまで取組が不足していたテーマについても取り上げる。



講演会

箱根八里街道観光推進協議会事業

日本遺産「箱根八里」のストーリーや構成文化財の魅力を発信するため、説明板や印刷物の作成、イベントでの情報発信を継続し、さらに、映像コンテンツの作成や構成文化財周辺の文化財の掘り起こしを行う。



日本遺産フェスティバル
(八王子市)

様々な人が 文化財に 関わる仕組み をつくる

行政、文化財所有者や文化財に関する活動を行う民間団体等、多様な関係者が連携して持続的な活動を行うための体制整備・人材育成を進めます。

専門職員(学芸員)の資質向上

専門職員(学芸員)が研修等へ積極的に参加するとともに、外部の研究会等への自主的な参加を支援し、資質向上を図る。



郷土教室

郷土資料館ボランティア事業

郷土教室(体験講座)の運営、古文書整理、石造物調査、民具整理等を実施している郷土資料館ボランティアについて、会員募集、養成講座、スキルアップ研修等を実施する。



ボランティア講座

4 関連文化財群

本市の歴史文化の特徴を踏まえたテーマに基づいて、関連文化財群を設定します。

① 富士山からのめぐみ「三島溶岩流と湧水」

本市の市街地は富士山噴火の際の溶岩流の末端部分にあります。溶岩のすき間を流れてきた地下水が水源から湧き出し、いくつもの湧水河川を形成しています。これら湧水河川の川岸にはカワバタと呼ばれる張り出しが設けられ、水汲みや洗い物が行われていました。また、染め物・和傘づくりなど産業にも利用されていました。

楽寿園 ^{あいぜんいん} 愛染院跡・白滝公園の三島溶岩流
小浜丘之図 ^{くろやなぎたいすい} (畔柳對水画) ^{なかざと} 中郷温水池の逆さ富士 等



中郷温水池の逆さ富士

② 東海道一の難所「箱根八里」

小田原、三島間の「箱根八里」の道は東海道一の難所とされ、江戸幕府は箱根宿や箱根西坂の五ヶ新田といった宿場町や集落を新たに設置し、また、石畳や杉・松並木、一里塚を整備して旅人の便宜を図りました。明治時代以降は根菜類を中心とした畑作が盛んになり、独特の文化的景観を形成しています。

箱根旧街道 (石畳、一里塚、松並木) 山中城跡・出土遺物
矢立の杉 接待茶屋跡・関連資料 畑作地帯からの眺望 等



山中城跡*1 障子堀

③ 近世東海道の宿場町「三島宿」

三島宿は、関ヶ原の戦いの翌年にあたる慶長6年(1601)の指定以後近世をとおして東海道の宿場町として繁栄しました。東西に東海道、北に甲州道(佐野街道)、南に下田街道が伸びる交通の要衝であり、多くの旅人でにぎわいました。

三嶋大社 ^{といやぼ} 三島問屋場・町役場文書 ^{みしまごよみ} 三島宿場風俗絵屏風
^{みしまごよみ} 三嶋曆と三嶋曆師の館 小浜山刑場供養塔 言成地藏堂 等



三島宿場風俗絵屏風(左隻)*3

三島信用金庫蔵

5 日本遺産「箱根八里」

旅人たちの足跡残る悠久の石畳道一箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路

日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。「箱根八里」とは、東海道で三島宿から小田原宿までの八里(約32キロ)の道を表します。江戸時代の五街道の中で最大の通行量を誇る東海道の「箱根八里」には当時の日本で随一の壮大な石畳が敷かれました。この石畳のほか宿場町や茶屋、関所、並木、一里塚が見られ、訪れる者を江戸の旅へと誘います。

令和7年3月 発行 三島市教育委員会文化財課

三島市文化財保存活用地域計画

〒411-0035 静岡県三島市大宮町1-8-3 8 TEL: 055-983-2672

FAX: 055-983-0870 E-mail: bunkazai@city.mishima.shizuoka.jp